

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」	4.a/7.2/7.3 7.a/13.1 13.2	—	学校施設の老朽化による機能低下、破損等について改修を行う。学校からの施設営繕に関する要望や現地調査を踏まえて緊急度・必要性を一件ずつ審査し、優先度の高いものから改修するとともに、校舎トイレの改修や屋内運動場の照明の改修等を計画的に実施する。	老朽化した学校施設の改修や社会環境の変化等に対応するための改修を計画的かつ継続的に実施することにより、児童生徒の安全を確保するとともに教育環境の充実を図る。
施策	3 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち				

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
建築後30年を経過した学校施設が大半を占める中で、児童生徒の安全の確保や施設の老朽化への対応が急務となっている。	学校施設の老朽化は年々進んでおり、より良い教育環境を整備するために緊急的・応急的な改修が必要である。また、台風などの気候変動対策やニューノーマルへの対応を重視した改修が求められている。	既存学校施設の老朽化は進んでいるため、今後も計画的かつ継続的な改修が必要である。また、台風などの自然災害の頻発化や新型コロナウイルスの収束も見られないことから、今後も老朽化対策だけでなく気候変動対策やニューノーマルへの対応を踏まえた改修の必要性が予測される。	学校からの施設営繕に関する要望を踏まえ、危機管理を念頭に置いて全体的なバランスを考慮しながら事業を実施している。

2 事業進捗等（指標等推移）

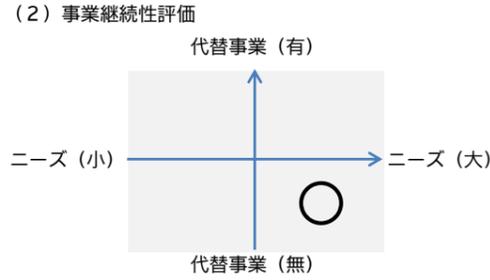
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画		七次実施計画		まちづくり基本指針		
			2018年度（平成30年度）		2019年度（令和元年度）		2020年度（令和2年度）		2021年度（令和3年度）		2022年度（令和4年度）		2023年度		2024年度		中間指標	最終指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	2025年度	
対象指標	公立小中学校	校		84		82		78											
活動指標①	各所改修件数	件	60	48	60	26	60	29	60		60		60		60				
活動指標②	校舎トイレ洋式化改修器数	器	150	165	150	270	150	266	150		150		150		150				
活動指標③	屋内運動場照明改修件数	校	4	2	3	2	3	2	3		3		3		3				
成果指標①	各所改修済件数（累計）	件	779	767	827	793	853	822	913		973		1,033		1,093		913	1,153	
成果指標②	校舎トイレ洋式化改修器数（累計）	器	1,449	1,464	1,614	1,734	1,884	2,000	2,034		2,184		2,334		2,484		2,034	2,634	
成果指標③	屋内運動場照明改修件数（累計）	校	33	31	34	33	36	35	39		42		45		48		39	51	
単位コスト（総コストから算出）	小中学校1件あたりのコスト	千円		6,539		6,092		7,715	16,929		11,141		11,141		11,141				
単位コスト（所要一般財源から算出）	小中学校1件あたりのコスト	千円		2,737		1,774		2,537	8,637		8,532		8,532		8,532				
事業費		千円		539,084		494,613		595,081	1,312,951		861,451		861,451		861,451				
人件費		千円		10,174		4,924		6,712	7,549		7,549		7,549		7,549				
歳出計（総事業費）		千円		549,258		499,537		601,793	1,320,500		869,000		869,000		869,000				
国・県支出金		千円		43,026		65,698		120,577	264,828		82,998		82,998		82,998				
市債		千円		276,300		288,400		283,300	382,000		120,500		120,500		120,500				
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		0		0													
その他		千円		0		0													
一般財源等		千円		229,932		145,439		197,916	673,672		665,502		665,502		665,502				
歳入計		千円		549,258		499,537		601,793	1,320,500		869,000		869,000		869,000				
	実計区分	評価結果		継続		継続		継続	継続		継続		継続		継続				

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
各所改修（一件審査） 令和2年度 29件（小学校17件、中学校12件） 校舎トイレ洋式化改修 令和2年度 266器（小学校159器、中学校107器） 屋内運動場照明改修 令和2年度 2校（小学校1校、中学校1校） 校舎トイレの洋式化率については、前年度と同様に計画値を大幅に上回った。また、上記事業のほか、受変電設備の高架化や太陽光発電設備等の設置など、フェーズフリーを最優先とした事業を実施した。	各所改修（一件審査） 令和2年度まで 累計 822件実施 校舎トイレ洋式化改修 令和2年度まで 累計2,000器実施（令和2年度末の洋式化率72.4%） 屋内運動場照明改修 令和2年度まで 累計 35校実施 校舎トイレの洋式化率については、前年度と同様に計画値を大幅に上回った。また、上記事業のほか、受変電設備の高架化や太陽光発電設備等の設置など、フェーズフリーを最優先とした事業を実施した。	【事業費】 気候変動対策として、赤木小学校及び永盛小学校の受変電設備の高架化を実施したほか、湖南小中学校へ太陽光発電設備及び蓄電池設備を設置したため、総事業費も前年度より増額となった。 【人件費】 前年度よりも人件費が増加した理由として、気候変動対策として実施した事業の対応や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各事業の見直し、スケジュール調整等により業務量が増加したことが挙げられる。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	4
4 成果指標（目的達成度）	4
5 活動指標（活動達成度）	4

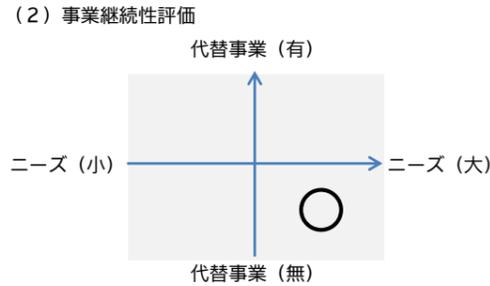


継続	一次評価コメント
継続	当該事業は、学校施設の老朽化による機能低下、破損等に対する子どもたちへの安全確保と教育環境の向上のため必要な事業である。校舎の長寿命化改修と併せて各所改修を実施し効率的な事業運営をしているが、緊急的・応急的な改修や施設の原状回復等、小規模改修の必要性が高いことから、今後も継続して事業を実施する。また、台風などの気候変動対策やニューノーマルへの対応も急務であることから、事業継続は必要不可欠である。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	4
5 活動指標（活動達成度）	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、学校施設の老朽化による機能低下の防止、破損等に対する子どもたちへの安全確保と教育環境の向上を図るため、施設等の改修を計画的かつ継続的に行う事業である。令和2年度は、計画値を上回るトイレ洋式化改修を実施し、洋式化率は72.4%となっている。また、気候変動対策として受変電設備の高架化や、太陽光発電設備及び蓄電池設備の設置など、フェーズフリーを最優先とした事業を実施したところである。気候変動による異常気象への備えや、コロナ対策の対応のため衛生面の充実を図る必要があることから、今後においても、児童生徒の安全安心の確保と教育環境の充実のため、効率化を図りながら、継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」	4.1	-	ピアノ更新、放送機器更新、耐火書庫更新、特別教室机椅子等更新、教卓更新、学校図書館図書廃棄・選定の管理、図書や書架等の備品整理等を行う。	放送機器やピアノ等、その購入に多額の費用がかかるものについて、計画的に更新する必要があるもの、緊急の状況により更新しなければならないもの等、必要性を勘案し、修繕や更新等の備品管理を行うことにより、小中学校における教育環境の維持・充実を図る。
施策	3 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち				

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
多額の費用がかかる一部の物品については、個別の事業により更新を進めてきた。しかし、多額の費用がかかる物品、特別教室の机椅子等は、現状の枠組みでは校舎の大規模改修時しか更新できなかった。	学校現場では、老朽化に更新が追いついていない物品が多く見られる。	これまでは、校舎の大規模改修事業（現在は長寿命化改修事業）に合わせ、物品の大規模な買換え等を行ってきた経緯があるが、長寿命化改修時のみだけの買換えでは、ますます老朽化に更新が追いつかない。	学校によっては（正確には、校舎の新旧によって）、物品の面でも、新旧の差が大きい。なるべく学校間における教育環境の差を均衡化していくことが必要。

2 事業進捗等（指標等推移）

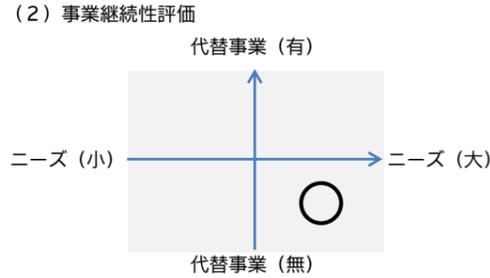
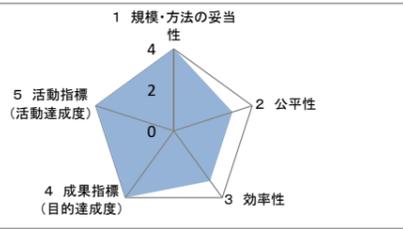
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画		七次実施計画		まちづくり基本指針		
			2018年度（平成30年度）		2019年度（令和元年度）		2020年度（令和2年度）		2021年度（令和3年度）		2022年度（令和4年度）		2023年度		2024年度		中間指標	最終指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	2021年度	2025年度									
対象指標	市立小中学校	校		82		81		78											
活動指標①	実施事業数（電話機ほか）	事業	8	8	12	8	12	7	7		7		7		7				
活動指標②	実施事業数（図書）	事業	1	1	1	1	1	1	1		1		1		1				
活動指標③	実施事業数（教卓）	事業	1	1	1	1	1	1	1		1		1		1				
成果指標①	教育環境が向上した学校数（電話機ほか）	校	55	75	55	79	55	85	67	67	67	67	67	67	67	67	67	67	
成果指標②	教育環境が向上した学校数（図書）	校	83	81	82	81	82	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	78	
成果指標③	教育環境が向上した学校数（教卓）	校	9	9	9	6	9	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
単位コスト（総コストから算出）	小中学校1校あたりのコスト	千円		1,054		1,044		1,266	1,072	1,072	1,072	1,072	1,072	1,072	1,072	1,072			
単位コスト（所要一般財源から算出）	小中学校1校あたりのコスト	千円		1,051		1,041		1,263	1,069	1,069	1,069	1,069	1,069	1,069	1,069	1,069			
事業費		千円		73,495		74,329		89,807	81,496	81,496	81,496	81,496	81,496	81,496	81,496	81,496			
人件費		千円		12,918		10,234		8,895	10,234	10,234	10,234	10,234	10,234	10,234	10,234	10,234			
歳出計（総事業費）		千円		86,413		84,563		98,702	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730			
国・県支出金		千円		259		263		264	263	263	263	263	263	263	263	263			
市債		千円																	
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円																	
その他		千円																	
一般財源等		千円		86,154		84,300		98,438	91,467	91,467	91,467	91,467	91,467	91,467	91,467	91,467			
歳入計		千円		86,413		84,563		98,702	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730	91,730			
		実計区分	評価結果	継続	改善	継続	継続	継続	継続	継続									

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
実施事業については、学校からの要望を受けて予算化されたものを実施しており、年度により内容が異なるため、事業数（更新・修繕物品の種類数）は増減することがある。	計画に基づき、一件審査により必要性・緊急度を勘案して更新・修繕を行っている。	【事業費】 必要性・緊急度を勘案して更新・修繕を行っているため、各年度の成果指標・単位コストの設置が困難であり、上記指標のみで事業の成果・効率性を判断するのは難しい。 なお、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響による外出の自粛、在宅時間の増加等を踏まえ、図書館の充実を図るため、令和3年度予算措置計画分を前倒したため、事業費が増加し、これに伴い、単位コストも過年度と比較し増加している。 【人件費】 災害対応業務の影響や担当職員の構成変化等により、ここ数年、減少傾向となっている。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	3
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	4
5 活動指標（活動達成度）	4

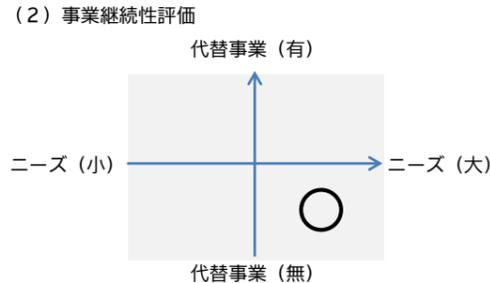
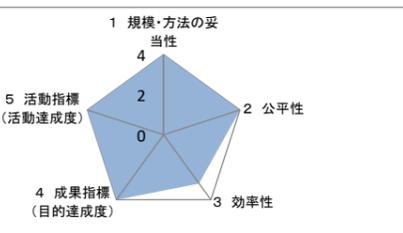


継続	一次評価コメント
継続	少子化により、対象となる児童生徒数は年々減少しているが、児童生徒が教育を受ける環境を整えることは不可欠であり、継続して事業を実施する必要がある。年度により、学校からの要望内容は変わってくるが、その必要性等を十分精査し、予算の確保・事業の実施を進め、小中学校における教育環境の維持・充実を図っていく。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	4
5 活動指標（活動達成度）	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、小中学校の備品等について、計画に基づき、緊急的更新等の必要性を勘案し、修繕や更新等の備品管理を行うことにより、小中学校における教育環境の維持・充実を図る事業である。小中学校からの要望を受けて次年度更新の予算要求を行い、限られた予算の範囲内で教育環境整備を図っている。 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響による外出自粛や在宅時間の増加等を踏まえ、令和3年度予算措置計画分を前倒して図書館の充実を図ったため、前年度と比べ事業費が増加している。また、学校からの要望を受け、必要性を十分に精査しながら7品目について整備を行い、教育環境の改善を図ったところである。 各学校の備品等の更新・整備を行うことは、児童生徒の快適な教育環境の維持のため必要不可欠であることから、学校からの要望に対しての必要性を十分に精査するとともに、教育環境の公平性を確保するため社会情勢の変化や市の教育施策の方向性を踏まえた上で、今後も継続して事業を実施する。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図(目的)
大綱(取組)	IV「誰もが地域で輝く未来」	3.4/3.5/3.6 3.7/3.8/3.a 4.7/13.1 13.3	○	「生涯学習きらめきバンク」を設置し、冊子と市ウェブサイトで情報を提供する。「市政きらめき出前講座」として、市職員がいつでもどこでも講師として出向く。	生涯学習の情報と市政の学習機会を提供することによって、市民の生涯学習の機会の確保を図る。
施策	2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち				

事業開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
平成8年度に郡山市職員若手政策研究会から「生涯学習きらめきバンク」及び「市政きらめき出前講座」の提案を受けたことにより開始した。	人々のライフスタイルの多様化や情報化社会の到来等による、学習ニーズが多様化している。さらに、人生100年時代に対応した生涯学習環境の充実が求められている。	市民の学習ニーズが多様化していることや、市民参画による市政運営を行う上で市民の市政への理解を啓発する必要性から、当該事業の必要性はますます高まっている。また、ライフスタイルの多様化から、「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境の整備が必要となってくる。	多岐にわたる市の事業内容や幅広い分野での学習内容に受講ニーズがある。

2 事業進捗等(指標等推移)

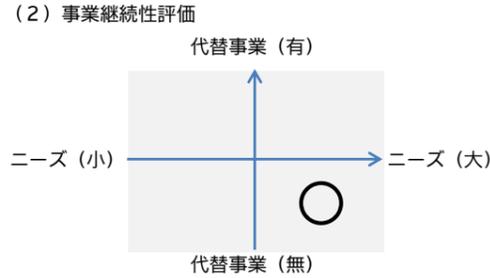
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画	七次実施計画	まちづくり基本指針	
			2018年度(平成30年度)	2019年度(令和元年度)	2020年度(令和2年度)	2021年度(令和3年度)	2022年度(令和4年度)	2023年度	2024年度	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度					
対象指標	市民	人		333,108		331,639		330,787								
活動指標①	生涯学習きらめきバンク登録件数	件	300	265	300	268	300	245	300		300		300	300		
活動指標②	きらめき出前講座メニュー数	講座	110	109	110	109	110	107	110		110		110	110		
活動指標③																
成果指標①	生涯学習きらめきバンク「達人先生」活動件数	回	3,000	2,037	3,000	2,436	3,000	1,672	3,000		3,000		3,000	3,000	3,000	3,000
成果指標②	市政きらめき出前講座申込件数	件	300	303	300	337	300	238	300		300		300	300	300	300
成果指標③	市政きらめき出前講座受講者数	人	12,000	12,213	12,000	15,417	12,000	7,997	12,000		12,000		12,000	12,000	12,000	12,000
単位コスト(総コストから算出)	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0.1		0.1		0.7	0.1		0.1		0.1	0.1		
単位コスト(所要一般財源から算出)	出前講座受講者1人あたりのコスト	千円		0.1		0.1		0.7	0.1		0.1		0.1	0.1		
事業費		千円		50		55		253	264		264		264	264		
人件費		千円		904		970		4,941	904		904		904	904		
歳出計(総事業費)		千円		954		1,025		5,194	1,168		1,168		1,168	1,168		
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金(使用料、負担金等)		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		954		1,025		5,194	1,168		1,168		1,168	1,168		
歳入計		千円		954		1,025		5,194	1,168		1,168		1,168	1,168		
	実計区分	評価結果		継続		継続		改善		継続		継続		拡充		

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費(事業費・人件費)分析結果
生涯学習きらめきバンク登録件数及びきらめき出前講座メニュー数はほぼ横ばいである。今後も市政情報を市民に効果的に発信するため、登録件数及びメニュー数の充実を図る。	生涯学習きらめきバンクの活動件数、きらめき出前講座の申込み件数及び受講者数はコロナの影響により減少した。今後は「新しい生活様式」に対応するため、オンラインで実施するなど市民のニーズにあった開催方法の充実を図る。	【事業費】 郵便代、印刷代に要する経費であるが、単位コストが低額で抑えられており、効果的・効率的な運営に努めている。 【人件費】 コロナの影響により受講者数は減少しているが、効果的・効率的な運営に努めている。 社会教育指導員が特別職から会計年度職員へ移行したことにより、増加となった。

3 一次評価(部局内評価)

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	3
5 活動指標(活動達成度)	4

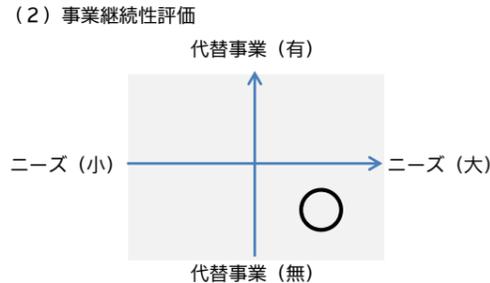


継続	一次評価コメント
継続	多様化する市民ニーズに柔軟に対応できる制度となるよう、事業内容を精査しながら実施する。 コロナの影響により、活動指標、成果指標が減少したが、「新しい生活様式」に対応したオンライン開催などの方法により実施していく。 ※メニューにオンライン実施可能講座掲載済(107講座中81対応)

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標(目的達成度)	3
5 活動指標(活動達成度)	4



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、生涯学習きらめきバンク「達人先生」と「市政きらめき出前講座」により、生涯学習の情報と市政の学習機会を提供する事業である。 令和2年度は、コロナの影響により達人先生の活動及び市政きらめき出前講座申込件数共に前年度より減少したが、市政きらめき出前講座については、メニューにオンライン実施可能講座を掲載することで、ニューノーマルに対応した講座の実施を図っているところである。また、達人先生メニューの印刷製本費増加のため事業費が増加しているが、令和3年度からはウェブ公開とし、ペーパーレスとする予定である。 今後も、市の事業内容をはじめとした生涯学習の情報を提供し、学習機会の充実を図るため、ニューノーマルに対応した形で継続して事業を実施する。なお、市民ニーズに応じて、各部局と連携し講座のスクラップ&ビルドを行い、さらなる市政情報の提供について検討する必要がある。

1 事業概要

Table with 5 columns: Policy System, SDGs, Broad Area, Process, and Intent/Purpose. Row 1: Policy System III, SDGs 4.1/5.1, Broad Area -, Process: Provide learning opportunities for parents, Intent: Provide learning opportunities and information to protect children's development.

Table with 4 columns: Business Start Environment (Background), Current Environment, Future Environment (Forecast), and Resident Intent Analysis. Row 1: Background: Started in 2019, Current: Lack of support for parents, Future: Decline in social norms, Intent: Diverse lifestyles and safety.

2 事業進捗等（指標等推移）

Large data table showing progress of various indicators from 2018 to 2025. Columns include: Indicator Name, Unit, 2018 Plan/Actual, 2019 Plan/Actual, 2020 Plan/Actual, 2021 Plan/Actual, 2022 Plan/Actual, 2023 Plan/Actual, 2024 Plan/Actual, 2025 Intermediate/Final Target.

Table with 3 columns: Activity Indicator Analysis Results, Outcome Indicator Analysis Results, and Total Business Fee Analysis Results. Row 1: Activity: Reduced due to COVID-19, Outcome: Reduced participation, Total Fee: Increased due to staff transfer.

3 一次評価（部局内評価）

Table for primary evaluation criteria: 1 Scale/Method Appropriateness (3), 2 Fairness (4), 3 Efficiency (3), 4 Outcome Indicator (4), 5 Activity Indicator (1).

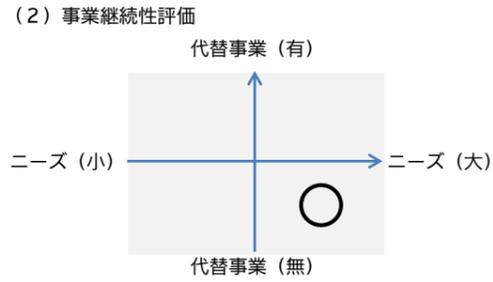
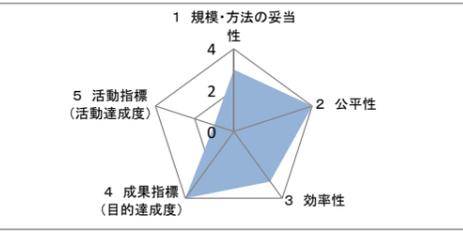


Table for primary evaluation comment: '継続' (Continuation). Comment: Reduced participation due to COVID-19, but will continue to improve through collaboration.

※評価2がある場合→原則「改善・廃止・統合」

4 二次評価

Table for secondary evaluation criteria: 1 Scale/Method Appropriateness (3), 2 Fairness (4), 3 Efficiency (3), 4 Outcome Indicator (2), 5 Activity Indicator (2).

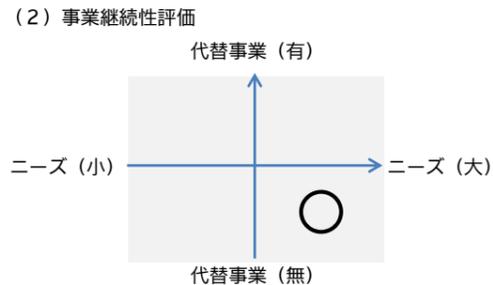
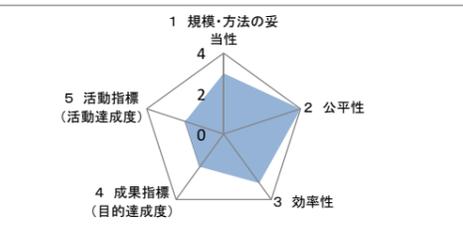


Table for secondary evaluation comment: '継続' (Continuation). Comment: Continued provision of learning opportunities, but needs to be improved by increasing support for parents.

1 事業概要		政策体系	SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	III「学び育む子どもたちの未来」	2 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち	17・17	-	式典とアトラクションを実施する。記念品、成人証書を配布する。対象者と年齢の近い方々で企画委員を組織し、つどいの企画・立案に参加してもらう。	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝い励ますとともに、互いに祝福しあい、夢と希望を語り合うつどいの場として郡山市成人のつどいを開催する。
施策						

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
国民の祝日に関する法律の施行に伴い、成人を迎える青少年に対して、大人としての自覚と社会の一員としての意識啓発を図るための場が求められている。	ライフスタイルの多様化等により、社会人としての自覚を促す機会の充実が求められている。	ライフスタイルが多様化していくことが予想される。	式典本来の意味合いが伝わるよう、プログラム構成や会場設営について、より参加者の視点に立った内容となるよう要望されている。

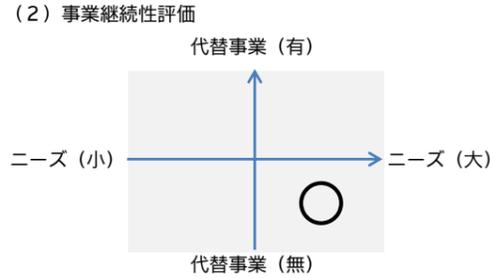
2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画		七次実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2018年度（平成30年度）		2019年度（令和元年度）		2020年度（令和2年度）		2021年度（令和3年度）		2022年度（令和4年度）		2023年度		2024年度		中間指標	最終指標
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	2025年度		
対象指標	新成人者数	人		3,799		3,598		3,541										
活動指標①	参加人数	人	2,642	2,822	2,802	2,650	2,813	1,791	2,700		2,700		2,700		2,700			
活動指標②	企画委員数	人	10	7	10	11	10	7	10		10		10		10			
活動指標③																		
成果指標①	参加率	%	76	74	77	74	78	51	75		75		75		75		75	
成果指標②	企画委員の会議参加率	%	80	74	80	82	80	96	80		80		80		80		80	
成果指標③																		
単位コスト（総コストから算出）	参加者1人あたりのコスト	千円		5		5.6		6.1	5.3		5.3		5.3		5.3			
単位コスト（所要一般財源から算出）	参加者1人あたりのコスト	千円		5		5.6		5.9	5.3		5.3		5.3		5.3			
事業費		千円		9,190		10,206		7,139	10,691		10,691		10,691		10,691			
人件費		千円		3,459		4,479		3,719	3,459		3,459		3,459		3,459			
歳出計（総事業費）		千円		12,649		14,685		10,858	14,150		14,150		14,150		14,150			
国・県支出金		千円						250										
市債		千円																
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円																
その他		千円																
一般財源等		千円		12,649		14,685		10,608	14,150		14,150		14,150		14,150		14,150	
歳入計		千円		12,649		14,685		10,858	14,150		14,150		14,150		14,150		14,150	
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続	継続								

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策のため、オンライン開催とし記念品をドライブスルー方式で配布した。その結果、参加者数は減少した。（参加者数は記念品配布数）※オンラインによるサイト閲覧数は延べ5,713件 コロナ対策のため、企画委員数は減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策のため、オンライン開催とし記念品をドライブスルー方式で配布した。その結果、参加率は減少した。（参加率は記念品配布率） 会議開催日程の工夫等により高い参加率を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事業費】 コロナ対策のため、オンラインで開催したことにより開催会場料金が削減され、事業費が減少した。 【人件費】 コロナ対策のため事業費が減少となり、単位コストが微増となったが、効果的・効率的な事業運営に努めている。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	3

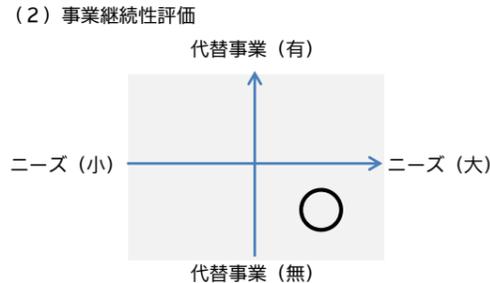


継続	一次評価コメント
継続	新成人を祝い励ますとともに、自主性や社会性を持った地域社会の一員として自覚を促す事業であり、人生の節目として認知され参加率も高いことから継続して実施する。実施にあたっては、新成人に近い年齢層の企画委員からの意見を取り入れ「新しい生活様式」を踏まえながら実施していく。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	3



継続	二次評価コメント
継続	成人のつどいは、公募により決定した企画委員が事業内容を検討し、毎年1月に実施している。令和2年度は、通常開催とオンライン開催との双方を想定し準備を進めた結果、コロナの影響を鑑み、式典のオンライン開催とドライブスルーでの記念品の配布とした。記念品配布数は例年の参加人数を下回ったが、オンラインによるサイト閲覧数は5,713件であり、関心の高さがうかがえる。また、通常開催の代替として、特設サイトにおいて恩師や郡山ゆかりの著名人からのメッセージや動画を掲載するなど、コロナ禍における新たな形の成人のつどいを実施した。今後においても、新成人のニーズや、ニューノーマルに対応した事業実施方法や内容について企画委員と協議しながら、継続して事業を実施する。なお、単位コストが3年連続増加していることから、効率的な事業運営に努める必要がある。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	IV「誰もが地域で輝く未来」	17・17	-	明るいまちづくり推進委員会協議会へ負担金を交付するほか、花いっぱい運動や川柳コンクールなど啓発活動を行っている。	明るいまちづくりのための運動を推進するとともに、コミュニティ活動の活性化及び住民主体によるコミュニティ活動の促進を図る。
施策	1 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち				

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
昭和44年当時、高度成長の中で市民生活が豊かになる一方、モラルの欠如からくる青少年の不良化、交通事故の増加などが社会問題となっていたことから、市が「明るいまちづくり運動」を提唱し開始した。	セーフコミュニティ活動のひとつとして、安全安心なまちづくりについて地域住民の連携協力が求められている。	少子高齢化や核家族化が進んでいることもあり、「世代間交流」がキーワードになると考えられる。	花いっぱいコンクールに代表されるように環境整備に関する関心が高まっている。また近年の社会情勢の変化及び東日本大震災の経験から、地域のコミュニティづくりについての関心がより高まってきている。また、花苗をもっと増やしてほしいという要望がある。

2 事業進捗等（指標等推移）

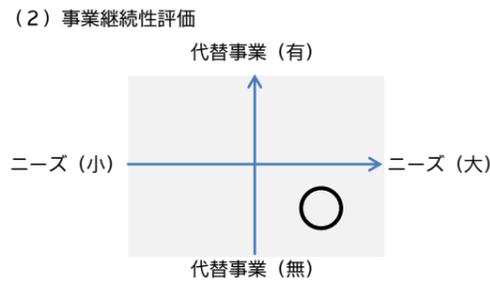
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画		七次実施計画		まちづくり基本指針		
			2018年度（平成30年度）		2019年度（令和元年度）		2020年度（令和2年度）		2021年度（令和3年度）		2022年度（令和4年度）		2023年度		2024年度		中間指標	最終指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	2025年度	
対象指標	市民地区	人		333,108		331,639		330,787											
活動指標①	花苗配付数	本	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000			
活動指標②	ココナビこおりやま発行部数	部	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500			
活動指標③																			
成果指標①	花いっぱいコンクール参加団体	団体	300	291	300	276	300	182	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300
成果指標②	ココナビこおりやまによる投稿数	件	640	646	640	542	640	581	640	640	640	640	640	640	640	640	640	640	640
成果指標③	会員の満足度（%）								80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
単位コスト（総コストから算出）	1 地区あたりのコスト	千円		284		252		254	285	285	285	285	285	285	285	285	285	285	285
単位コスト（所要一般財源から算出）	1 地区あたりのコスト	千円		284		252		254	285	285	285	285	285	285	285	285	285	285	285
事業費		千円		7,131		7,073		6,787	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169	7,169
人件費		千円		2,800		1,717		2,120	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800
歳出計（総事業費）		千円		9,931		8,790		8,907	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969
国・県支出金		千円																	
市債		千円																	
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円																	
その他		千円																	
一般財源等		千円		9,931		8,790		8,907	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969
歳入計		千円		9,931		8,790		8,907	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969	9,969
		実計区分	評価結果	継続	改善	継続	継続	継続	改善	継続									

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
花苗の配布数は、予定数を配布した。なお、地域からは約2万本の配布希望があるため、十分に対応できていない。「ココナビこおりやま」パンフレットを予定通り作成し配布した。	花いっぱいコンクールの参加団体は、参加者の高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響により減少した。ココナビこおりやまの投稿数は、パンフレット配布数に増減はないものの道路破損の投稿が増加したため若干増加した。	【事業費】 事業費はほぼ横ばいで推移しており、効果的・効率的な事業運営に努めている。 【人件費】 人件費は若干増加した。単位コストを低額に抑えるため、効果的・効率的な運営に努めている。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	4

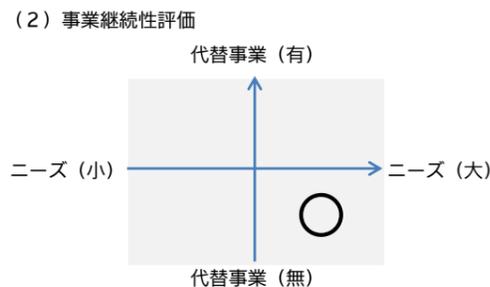


継続	一次評価コメント
	東日本大震災以降、地域コミュニティの重要性が再認識され、安全安心なまちづくりへの意識の高まりによりセーフコミュニティ活動の推進が図られていることから、事業内容の精査を行いながら「新しい生活様式」を踏まえ継続して実施する。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	2
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	4



改善	二次評価コメント
	当該事業は、明るいまちづくりのための活動及び住民主体によるコミュニティ活動の活性化を図る事業である。 令和2年度は、花いっぱい運動による花苗の配付を予定通り実施したが、新型コロナの影響により花いっぱいコンクールの参加団体は減少した。また、安全安心なまちづくりのため、ココナビこおりやまパンフレットの発行及び配付を行い、投稿数は前年度を上回った。地域の課題を地域で見つけるまちづくりが定着しており、コロナ禍においても各地区の明るいまちづくり推進委員会により、地区の環境整備やセーフコミュニティ活動が継続され、地域のコミュニティづくりが図られているところである。 しかしながら、花いっぱいコンクールやココナビこおりやまの活用だけでなく、各地区において生涯学習事業や地域交流を通じた活動等を実施している現状が、事業概要や指標に表れていないため、当該事業の適切な成果の把握に至っていない状況にある。協議会の設置目的と活動の意義を再度整理するとともに、コミュニティ活動などを通じた生涯学習の推進のため、各地区の活動を把握した上で適切な指標を設定する必要がある。

1 事業概要

政策体系		SDGs	広域事業	手段	意図（目的）
大綱（取組）	IV「誰もが地域で輝く未来」	3.4/3.5/3.6 3.7/3.8/3.a 4.7/11.a	○	市内41の地区・地域公民館において、青少年の健全育成や高齢者の生きがいつくりなど、市民の多様な学習ニーズに対応する定期講座等を開設する。また、学習ニーズによる教養的な講座だけではなく、地域コミュニティの核となる人材育成や世代間交流などの事業を実施し、生涯学習の推進とともに、地域づくりの推進を図る。	子どもから高齢者までの各世代の学習ニーズに応じた各種講座等の開催により、市民の自主的な生涯学習活動及び地域に根ざした学習活動を支援する。
施策	2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち	13.1/13.3			

事業開始時周辺環境（背景）	現状周辺環境	今後周辺環境（予測）	住民意向分析
社会の急速な変化に対応して、日常生活に必要な知識や技能の習得と個人の持つ関心や興味を喚起させ、自己啓発を図るとともに、集団による学習の場を設けて学習者の仲間作りを促進する必要があった。	生涯学習の拠点として公民館は広く認知されており、市民が気軽に趣味や教養を学ぶための定期講座等は毎年一定の需要がある。地域づくりの拠点としても公民館は中心的な役割を担っており、地域づくりを目的とした講座等が活発に行われている。また、ICTの急速な発展・広がりにより、デジタル教材を活用した自己学習も普及している。	都市化や過疎化、少子高齢化により、公民館の事業に参加する世代に偏りが見られる地区があり、今後は全市的な課題となると思われる。市民が必要としている課題等を的確に把握し、市民のニーズと地域の課題をふまえた講座等の実施が必要である。また、講座をネット中継・配信し、場所・時間に左右されない事業展開をする必要がある。	事業をきっかけとして、地域のボランティア組織の設立等につながった例もあることから、きっかけを探している人材が多いと考える。

2 事業進捗等（指標等推移）

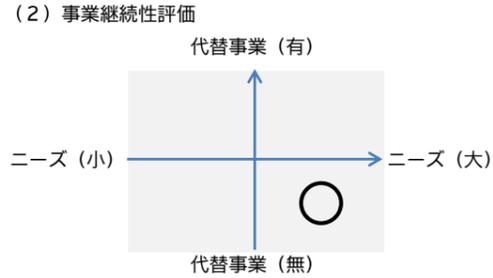
指標名	指標名	単位	まちづくり基本指針一次実施計画		まちづくり基本指針二次実施計画		まちづくり基本指針三次実施計画		まちづくり基本指針四次実施計画		まちづくり基本指針五次実施計画		六次実施計画		七次実施計画		まちづくり基本指針		
			2018年度（平成30年度）	2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	中間指標	最終指標						
対象指標	市民	人		333,108		331,639		330,787											
活動指標①	講座開催数	回	300	264	300	232	300	195	250		250		250		250				
活動指標②																			
活動指標③																			
成果指標①	講座受講者数（延べ人数）	人	25,600	27,061	25,600	22,351	25,600	11,791	24,000		24,000		24,000		24,000		24,000		24,000
成果指標②	受講者満足度	%	100	93	100	92	100	92	100		100		100		100		100		100
成果指標③																			
単位コスト（総コストから算出）	受講者1人あたりのコスト	千円		4.0		4.7		9.3	5.0		5.0		5.0		5.0		5.0		
単位コスト（所要一般財源から算出）	受講者1人あたりのコスト	千円		4.0		4.7		9.3	5.0		5.0		5.0		5.0		5.0		
事業費		千円		15,849		13,233		12,006	26,247		26,247		26,247		26,247		26,247		
人件費		千円		91,948		90,066		97,967	91,948		91,948		91,948		91,948		91,948		
歳出計（総事業費）		千円		107,797		103,299		109,973	118,195		118,195		118,195		118,195		118,195		
国・県支出金		千円																	
市債		千円																	
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円		538		352		347	654		654		654		654		654		
その他		千円																	
一般財源等		千円		107,259		102,947		109,626	117,541		117,541		117,541		117,541		117,541		
歳入計		千円		107,797		103,299		109,973	118,195		118,195		118,195		118,195		118,195		
	実計区分	評価結果		継続		継続		継続		継続		継続		継続		継続		継続	

活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
厳しい財政状況の中、趣味・教養に関する講座を精査し、地域の課題解決等に資する事業を優先的に実施したことにより開催回数は減少している。また、コロナウイルスの影響により6月末まで事業を中止したほか、各館と協議し中止した講座等もあったため開催数は減少した。	講座開催回数の減少や受講者申込数を制限したことに伴い受講者数も減少している。 ※代替策：タブレットPCを各公民館に配置し、YouTubeを利用して講座を配信した。	【事業費】 コロナの影響により減少しているが、効果的・効率的な事業運営に努めている。 【人件費】 人件費は若干増加したが、地域の課題解決等に資する事業を優先的に実施したことにより効果的・効率的な運営に努めている。

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	3

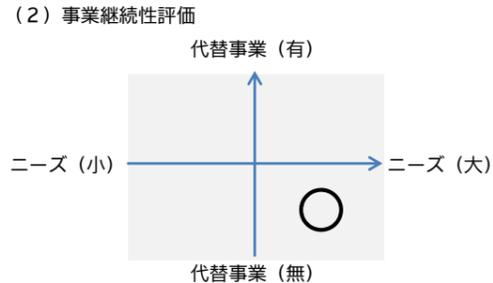


継続	一次評価コメント
継続	各公民館において、コロナウイルスの影響及び地域課題解決を意識した講座を優先的に行うことにより、講座開催回数は減少したものの、地域活性化を促す取組みが各地で展開されている。今後も、各公民館の事業量や事業の必要性、役割等を精査し、効率的でバランスのとれた事業運営を図りながら継続して実施することとする。なお、コロナ対策としてネット中継・配信等を取り入れながら実施していく。

4 二次評価

(1) 事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	4
3 効率性	3
4 成果指標（目的達成度）	3
5 活動指標（活動達成度）	3



継続	二次評価コメント
継続	当該事業は、青少年の健全育成や高齢者の生きがいつくり、地域コミュニティの核となる人材育成を図るため、地区・地域公民館において、定期的に講座を開催していく事業である。 令和2年度は、新型コロナウイルスにより、講座開催数や講座受講者数は前年度と比べ減少した。しかし、全地区・地域公民館にタブレットが配置されたことにより、リモート講義や動画配信等、新しい生活様式に対応する講座運営に取り組んでいるところである。 今後においても、様々な世代の学習ニーズを満たす講座を開催するとともに、地域づくりと世代間交流の創出を図るため、継続して事業を実施する。なお、ニューノーマルの浸透を新たな機会と捉え、新規受講者の獲得につながるよう、効果的なICTの活用方法を検討するとともに、単位コストが増加していることから、効率的な事業運営に努める必要がある。